

特集：次世代情報教育の構築に向けて ——情報教育環境——

添削待ち時間を適切にするためのレポート管理機構の効果

熊谷 陽*, 李 曉永**, 松澤 芳昭*, 太田 剛***, 酒井三四郎***

The Effects of Report Management System to Promote Appropriate Time to Wait for Correction

Yo KUMAGAI*, Xioyong LI**, Yoshiaki MATSUZAWA*, Tsuyoshi OHTA***, Sanshiro SAKAI***

In laboratory classes, students repeatedly modify and submit their report until its contents satisfy a teacher. When the teacher isn't satisfied with its contents, he/she corrects and returns it to the student. In such activity, there are quite a lot of reports that the teacher should correct. For that case, understanding and managing each state of student's report become the teacher's loads. It is difficult to manage many reports accurately, manually, and simultaneously by some teachers to process them. This paper describes to be able to do the time to wait for correction appropriately as a result of analyzing the management of the report of the reality, to promote the report management mechanism based on it.

キーワード：添削, Web 応用, コンテンツ管理システム, 協調作業

1. はじめに

情報教育をはじめ調査や実験・演習（以下演習という）をともなう教育では、レポートの提出をともなう授業が展開される。教員はレポートのテーマを学生に提示する。学生は与えられたテーマについて、演習を行い、その結果をまとめてレポートを作成し、教員に提出する。学生はこのレポート作成を通じて、学習内容を定着させ、レポートの書き方を学ぶことになる。

レポート提出の形態は2種類に大別できる。一つは、学生にレポートを提出させるが教員はレポートの添削を行わず評価する形態である。もう一つは、一定の水準に達するまでいくどか学生の提出したレポートを教員が添削し、その水準になるまで学生にレポートの再提出を求める形態である。本論文で対象とするレポート提出の形態は後者である。

一般に授業担当教員は1名から多くても3名程度である。対して、その授業を履修する学生は必修科目ともなれば100名近くになることがある。このような授業でも学生のレポートを教員が添削し、学生にレポートを再提出させることで教育効果を高めることができる。よい。

レポートは添削をともなうため、レポート提出には紙媒体が用いられることが多い。しかし、紙媒体を用いている場合に、以下のような問題点が存在する。

(1) 学生が再提出したレポートには教員が添削時につけていた指摘は残っていないことが多い。また、学生がレポートのどの箇所を修正してきたかの把握が難しい。そのため教員はレポートの再提出時に学生に質問するなどして、以前つけていた指摘や修正箇所を確認しなければならない。

(2) 学生は教員と対面し、教員がその場でレポー

* 静岡大学大学院情報学研究科 (Graduate School of Informatics, Shizuoka University)

** 静岡大学大学院理工学研究科 (Graduate School of Science and Engineering, Shizuoka University)

*** 静岡大学情報学部 (Faculty of Informatics, Shizuoka University)

受付日：2008年5月7日；再受付日：2008年8月8日；採録日：2008年9月11日